

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：82611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26870885

研究課題名(和文) 戦後精神病床入院の社会政策史研究：公的支出形態の3類型の視点から

研究課題名(英文) A Social Policy and History Studies on Post-War Psychiatric Hospitalization in Japan: From the Point of View of Three Types of Public Expenditure Programs,

研究代表者

後藤 基行 (GOTO, Motoyuki)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 精神保健計画研究部・流動研究員

研究者番号：70722396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の精神病床入院メカニズムを医療費支払区分別に3タイプに整理し、それぞれの展開を歴史的に考察した。その結果、戦後日本の急激な精神病床・入院増は、先行研究が強調してきた公安主義的なものよりも、家族のディマンドに牽引された同意(医療保護)入院と、それに対する医療扶助給付によって主に牽引されたことが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study reveals new analysis of the historical development of post-war psychiatric hospitalization in Japan by dividing the medical expenditure into 3 types of "public custody", "public assistance" and "social insurance".
As a result, contrary to the emphasis of the previous research, what promotes the rapid expansion of the psychiatric hospitalization is not the public security but the demand for the consent (of protect) hospitalization from the families as caregiver that is supported by the medical public assistance program for the poor.

研究分野：医療社会学、社会政策、医療政策、精神医療史

キーワード：精神病床入院 精神医療政策 3類型 社会防衛型 生活保障型 治療型

1. 研究開始当初の背景

近年、急増している老人性認知症を含め、精神疾患の疾病構造に占める重要性が増している。そうした中でも、とりわけ 30 万人を超える精神病院への入院患者の多さは問題が指摘されてから久しい。日本の精神病床入院患者数は、人口比でも絶対数でも世界最大で、また入院患者の在院期間も最長である。よって、このような多すぎる病床数の削減と共に入院を中心とした医療から地域でのケアへの移行が、精神保健医療福祉領域での長年の政策的課題となっている。

こうした過剰な病床を持つに至る過程として、戦前・戦中期の精神病床のピークであった約 2 万 4 千床 (1941 年) が、戦争による急落を経て、戦後の 1950 年代から 70 年代にかけて大きく増加し、1961 年には 10 万床、79 年には 30 万床を突破した。その後は、1990 年代前半期の 36 万床を最大値とするまでは微増、以後は微減の傾向となり、今日に至っている。

以上のような経緯を踏まえると、1950 年代から 70 年代においてなぜ急激な病床ストックが形成されたのかということの考察は、現在の問題がいかようにして作り上げられてきたかを知ることであり、それは今日の精神保健医療福祉における精神病床削減というミッションを遂行する上で重要な認識と考えられる。

本研究は、何故日本の精神医療体制が、世界の地域医療化への潮流に反し、入院治療に傾斜し続け、長期入院が慢性化しているのか、という古くからの問いに対し、歴史的なソリッドファクトに基づく新しい知見を構築していくための基礎研究を行う。

2. 研究の目的

1950 年代から 70 年代に生じた日本の精

神病床・入院の急増の原因を、医療費支払区分別に 3 類型として整理し、その実態と構造を分析することを目的とした。

代表者らはこれまでの研究により、日本における精神病床入院の制度的経路が 3 種類形成されてきたことを歴史社会的に考察してきた。これら 3 類型から投入される公的支出が、戦後日本における大規模な精神病床体制成立を可能にしたが、先行研究は入院形態の強制性の問題に着目する一方で財政的問題関心が薄かった。

よって、本研究の第一の目的は、戦後の精神病床入院を財政的観点から区分し、その制度運用実態を一次行政文書から明らかにすることである。また協力者による計量経済学的分析等にもより、それら制度の財政的変遷を描き出し、精神病床入院に与えた各制度の影響を分析することである。これらを通じ、日本の精神病床入院が何故にかくも大規模化したのか、という問いを考える上での基礎研究となることを目標とする。

3. 研究の方法

厚生省『患者調査』をはじめとした一次統計資料のデータを基礎にしつつ、地方自治体公文書館が所蔵する 1950 年代から 60 年代の精神病床入院に関わる一次行政文書を利用した。

その際に、申請者が独自に発展させてきた精神病床入院の 3 類型の戦後における制度的対応物として、精神衛生法 (措置入院)、生活保護法 (医療扶助入院)、各種社会保険法 (保険入院) ごとに入院患者数の長期時系列統計を推計した。

一次行政文書は、神奈川県立公文書館所蔵の 1950 年代から 70 年代にかけての精神障害者の入院に係る資料を主に利用した。とりわけ、家族からの申請による同意入院と医療扶助給付に至ったケースのもの

を分析した。

4. 研究成果

1950年代から70年代は、日本において急激な精神病床増が生じ、現在と同様の30万床超の病床ストックが形成された時代であったが、この時期において最も病床増を牽引していたのは医療費支払区分でいうと生活保護法による医療扶助費であった。また、入院形態としては、同意（医療保護）入院が圧倒的な量となっていた。

以上からも、戦後の大規模な精神病床増は、医療費負担としては生活保護給付、入院形式としては家族主導の同意入院という組合せが中核となっており、これにより、先行研究が強調してきたような措置入院に代表される公安主義的な要素というものでは戦後の日本の精神病床入院の機能を全体としては説明しないことが明らかとなった。

そうではなく、むしろ日本社会に広範に蓄積されていた精神障害者世帯の貧窮状態を背景に、患者を支え続けることのできなくなった家族から押し出された結果としての同意入院と、それに対する公的扶助としての医療扶助給付こそが、戦後の日本の精神病床・入院の急増と、病床削減に対する構造的な困難性の要因として発見されたと考えられる。すなわち、家族は、患者を世帯内でケアする主体であるのみならず、ケアから積極的に離脱しようとする主体でもあったことが歴史的に発見されたといえる。また、医療扶助の大規模な適用は、この家族の意思に日本社会全体が公費でもって対応したということの意味する。

その結果、このような公的扶助に後ろ支えされた入院は、精神病床の機能として患者の治療をインテンシブに行うものとしては成立させず、むしろそこに生活保障的な内実を付与させていくことになり、長期入院化の原因となっていくと考えられる。

よって、今後地域医療化と病床削減を遂行していくうえで、患者の退院先・居住先としての「家族」というものが慎重に検討されることなく前提とされた場合、戦後の病床増を構造づけていた歴史的な過程と矛盾することになり、失敗が避けがたいものになると推測される。

結果まとめ

現在なお不変である日本の大規模な精神病床ストックは、公安主義的な医療政策、あるいは資本主義的病院経営によってではなく、貧困患者世帯に対する救貧・公的扶助的な機能を付与されながら構築されてきたものであり、入院に際する初発の動機においては家族の意思が決定的な役割を果たしていたことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

後藤基行、安藤道人、精神衛生法下における同意入院・医療扶助入院の研究
神奈川県立公文書館所蔵一次行政文書の分析、査読有、季刊家計経済研究、(108)、2015、60-73

安藤道人、後藤基行、精神病床入院体系における3類型の成立と展開 制度形成と財政的変遷の歴史分析、査読有、医療経済研究 26(1)、2014、27-41

〔学会発表〕（計 2 件）

後藤基行、医療扶助を適用した強制的な精神病床入院の研究 1959年の一次行政文書の運用事例を中心に、第130回 社会政策学会（2015年度春

季)、2015年6月27日、東京

Motoyuki Goto, Michihito Ando,
Three Types of Psychiatric
Hospitalization in Japan: A
Historical Analysis of Institutional
Formation and Financial Transition,
WPA (World Psychiatric Association)
Section on Epidemiology and Public
Health, 2014年10月16日, 奈良

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

後藤 基行 (GOTO, Motoyuki)

国立精神・神経医療研究センター精神保
健研究所 精神保健計画研究部 流動研究員

研究者番号: 70722396

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし